

評価細目の第三者評価結果 (保育所、地域型保育事業)

I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

	第三者評価結果	コメント
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	・理念・基本方針は職員へは入職前資料や説明、年度末職員会議で詳細な資料を基に説明を行っている ・さらに職員は運営法人の教会礼拝に参加し理念をより深く理解するよう努めている ・保護者へは懇談会で資料をもとに丁寧な説明に努めている ・さらに掲示やホームページ、パンフレットで公開し職員・保護者双方への理解浸透に努めている

I-2 経営状況の把握

	第三者評価結果	コメント
I-2-(1) 経営環境の変化等に対応している。		
I-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	・園長が毎月の経営状況を確認、分析し必要に応じて修繕や設備追加と検討を行っている ・会計は専門機関へ委託し助言を受けている
I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	・法人は経営課題を明確にし園は単年度計画に反映し課題ごとに具体的な取組を進めている ・年度末職員会議で取組の成果や課題を振り返り次年度につながるよう努めている

I-3 事業計画の策定

	第三者評価結果	コメント
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c	・現時点では策定されていないが必要性を十分認識して今後着手する予定である
I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c	・中長期計画は策定されていないが前年度の振り返りをもとに単年度の課題と目標を設定している ・設定した内容は事業計画に反映させて年間計画などと連動させ具体的な取組を進めている ・今年度は自己評価結果を活用し共有と記録の充実にも重点的に取り組んでいる
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	・事業計画は「保育の振り返り」「職員自己評価やセルフチェック」「職員会議」「保護者アンケート、懇談会での意見・要望」などをもとに園長がとりまとめ次年度の計画に反映している ・園は3月の職員会議・研修で周知し理解に努めている
I-3-(2)-② 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	a	・保護者総会や懇談会を通じて丁寧に説明し理解に努めている ・年間計画はICTを活用し保護者がいつでも確認できるよう整えている

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

	第三者評価結果	コメント
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
I-4-(1)-① 福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	・今回初めて第三者評価を受審し課題把握と改善に努めている ・年1回の自己評価を9分野37項目で行い、評価ランクに加え意見や改善案をホームページで公表している ・人権セルフチェックを実施し必要に応じて園長が助言を行っている ・また研修を行い職員一人ひとりが理解を深めながら質の向上に努めている

I-4-(1)-② 評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	・課題は園やクラス運営、分掌・体制など分野毎に整理し事業計画や各計画へ反映している ・年度末会議で職員へ周知し共通理解と取組の実効性が高めるよう努めている
--	---	--

II 組織の運営管理

II-1 管理者の責任とリーダーシップ

	第三者評価結果	コメント
II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
II-1-(1)-① 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	・分掌表、BCP、運営規程などで役割と責任を明確にし職員理解に努めている ・園長は「職員が財産」と語り、職員が安心して保育に取り組めるよう努めている
II-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	・園長は行政園長連絡会議、研修、勉強会に参加し最新の情報を把握し運営に反映しようと努めている ・研修後は報告書を作成し職員への理解に努めている
II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
II-1-(2)-① 福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	・今年度第三者評価を初めて受審し課題の抽出と改善に努めている ・自己評価やセルフチェック、保護者アンケートを分析し、課題の把握と改善に努めている。
II-1-(2)-② 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a	・職員の働きやすさが子どもへのより良い保育につながると考え、夏季休暇取得期間の改定やICT導入、休憩時間の見直しなどにより業務の効率化に取り組んでいる ・会議内容は事前に議題を提示し、各会議までにICTへ子どもの様子をを入力し効率的な進行と活発な意見交換を促し、意思決定の迅速化と職員の参加意識向上につなげている

II-2 福祉人材の確保・育成

	第三者評価結果	コメント
II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
II-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	・養成学校への案内、就職フェアの参加など計画的に参加し人材確保に取り組んでいる ・就職フェアでは職員が担当者として説明し年齢の近さや現場の生の声を伝え応募者の理解と安心につながるよう努めている
II-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。		
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	・園長は一人一人の事情を聞き取り事情に合わせてシフトの組み換えを行っている ・埼玉県「多様な働き方実践企業」「シニア活躍推進宣言企業プラス」として認定され働きやすい職場作りに努めている
II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
II-2-(3)-① 職員一人一人の育成に向けた取組を行っている。	c	・個々の研修計画は策定されていない ・今後は個々の目標、達成時期を定め計画的に育成に向けた取り組みを行うことを期待します
II-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	c	・今後は個々の目標を設定し達成時期を定め、計画的に育成に向けた取り組みを行うことを期待します
II-2-(3)-③ 職員一人一人の教育・研修の機会が確保されている。	b	・園長が職員各々に必要と思われる研修を薦め参加を促している - また全体に必要とされる研修については園内研修として実施している

Ⅱ－２－(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
Ⅱ－２－(4)－① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	・積極的に実習生を受け入れている。 ・実習1か月前にオリエンテーションを実施し実習生が余裕をもって臨めるよう努めている ・実習内容は学校からの依頼文をもとに担当者が実習生と共に内容や進め方を確認し目的に応じた実習となるよう努めている

Ⅱ－３ 運営の透明性の確保

	第三者評価結果	コメント
Ⅱ－３－(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
Ⅱ－３－(1)－① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	・ホームページやパンフレットを活用し理念・保育方針・保育内容などを公開している ・社会福祉法の規定に基づき財務諸表等WAMNETで公開、情報の透明性を確保している - さらに定款、決算書、自己評価、苦情対応状況もホームページで公表している
Ⅱ－３－(1)－② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	・園の事務や経理は管理者が法人ルールに基づき行い、適正な経営管理に努めている ・会計業務は外部に委託し、専門的な視点からの助言も受けている

Ⅱ－４ 地域との交流、地域貢献

	第三者評価結果	コメント
Ⅱ－４－(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
Ⅱ－４－(1)－① 利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	・園庭開放の実施、お知らせコーナーに地域のイベント情報や社会資源を掲示、地域のお祭りへの参加など地域の保護者や子どもと繋がりをもてるよう取組んでいる ・今後は自治会との連携も検討している
Ⅱ－４－(1)－② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	・ボランティアマニュアルを整備しこども、ボランティア、職員それぞれの目的や手順を明示している ・活動前にオリエンテーションを実施し活動内容や期間、役割、非常災害時の行動、留意事項などを説明し安心して活動できるよう努めている ・子どもの情報や写真撮影に関する誓約を得て情報管理を徹底している
Ⅱ－４－(2) 関係機関との連携が確保されている。		
Ⅱ－４－(2)－① 福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	・学校、養育機関、児童相談所、春日部市保育課と連携を図り、より良い保育の実現に努めている ・今年度から運用された行政の園アドバイザーの活用や療育機関と連携を図りより良い運営に努めている ・職員が必要時に速やかに連絡をとれるよう関係機関一覧を掲示している
Ⅱ－４－(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
Ⅱ－４－(3)－① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a	・行政園長会議、見学者、兄弟がいる保護者からの情報などから情報を収集しニーズの把握に努めている
Ⅱ－４－(3)－② 地域の福祉ニーズ等に基づく公益的な事業・活動が行われている。	a	・園庭開放と相談事業を実施している ・今後は災害時に保育園を地域に開放していくことも検討している

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ－１ 利用者本位の福祉サービス

	第三者評価結果	コメント
Ⅲ－１－(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
Ⅲ－１－(1)－① 利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	・人権セルフチェックを実施し、園長は分析後必要に応じて職員と面談し助言を行っている ・より全体の意識をたかめるため参考書籍を回覧するなど職員が保育を振り返りやすくなるよう努めている ・また共有認識を図るため改めて年度末会議で共有している

Ⅲ－１－(１)－② 利用者のプライバシー保護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	a	・職員は入職時に個人情報に関する誓約をし、さらに会議等で周知徹底を図っている ・オムツ替え・着替えは保育室の決められた場所で行い他者の目に触れないようにしている
Ⅲ－１－(２) 福祉サービスの提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。		
Ⅲ－１－(２)－① 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	・園見学を随時行い見学時にはパンフレットを配布している ・ホームページには「保育方針・保育の特色」「年齢ごとの一日の流れ」「費用」「自己評価結果」などを掲載し積極的に情報提供している
Ⅲ－１－(２)－② 福祉サービスの開始・変更に当たり利用者等に分かりやすく説明している。	a	・入園説明会で入園のしおり(重要事項説明書)、個人情報保護方針、協力・理解していただきたい事項などをうい丁寧説明している ・内容は毎年見直し簡潔でわかりやすい表現になるよう努めている ・変更時は保護者会で説明し、その後ICTや掲示を活用して周知・理解促進に努めている
Ⅲ－１－(２)－③ 福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等に当たり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a	・園長が窓口となり、継続して相談を受けられるよう案内している ・合理的配慮が必要な子どもは、育ちの記録を転園先へ提出し、口頭でも説明して支援が途切れないようにしている ・転園児にも年度末に「さんあいしんぶん」を送付し、園行事への招待するなど継続性に配慮している
Ⅲ－１－(３) 利用者満足の向上に努めている。		
Ⅲ－１－(３)－① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a	・「保護者との日々の会話」「ICTによる連絡」「保護者会総会・役員会」「個人面談」「アンケート」などで意向や要望、満足度を把握するよう努めている
Ⅲ－１－(４) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
Ⅲ－１－(４)－① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	・苦情受付マニュアルを策定し、迅速かつ誠実な対応ができる体制を整備している ・マニュアルには概念や基本的心構え、受付から記録・報告までを明確に示し、職員が適切に対応できるようにしている ・苦情があった際は園内掲示で報告し、年度末にはホームページで公表している
Ⅲ－１－(４)－② 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a	・保護者が意見を伝えやすいようICTや個人面談、保護者会総会、役員会、子育て講座、アンケート、意見箱など各種用意している
Ⅲ－１－(４)－③ 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	・相談や意見があった場合は園長へ報告し原因・対応策・改善策を話し合い安心して通園できるよう努めている ・子育て講座やアンケートは報告書を掲示し、保護者へフィードバックしている
Ⅲ－１－(５) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
Ⅲ－１－(５)－① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	・安全委員会を設置しヒヤリハットの振り返りや施設点検を実施して再発防止に努めている ・マニュアルは事故やケガ、不審者対応など11分野を整備し平時の点検から緊急時の手順まで明確に示し職員が共通理解のもと迅速かつ的確に行動できる体制を整えている ・計画は毎月の重点点検や年4期の職員研修、子どもへの安全指導や保護者啓蒙を体系的に組み込み施設全体で継続的に安全意識を高めている - また避難計画において介助が必要な子どもと担当職員を一覧化し役割を明確にしている ・設備は防犯カメラ16台や顔認証による電子錠の設置し安全性強化に努めている

Ⅲ－１－（５）－② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	・感染症BCPには日頃からやっておかなくてはならないこと、発生時の対応が明確に示され感染拡大防止に努めている ・年間保健計画を策定し、通年実施事項と季節実施事項に区分するとともに職員学習や子どもへの保健指導、年齢別の配慮事項を明記し、園全体で体系的に実施している ・感染症発生時は園内掲示などで注意喚起し拡大防止に努めている
Ⅲ－１－（５）－③ 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	・地震・水害、洪水のBCPには日頃からやっておかなくてはならないこと、発生時の時系列対応、職員参集の基準、役割、優先業務など想定されるできる限りを明示している ・避難が必要になった時に食物アレルギー児を守るためワッペンが非常持ち出し袋に入れている ・水害に備え垂直避難訓練を計画している ・今年度初めて隣接保育園と合同の避難訓練を計画している

Ⅲ－２ 福祉サービスの質の確保

Ⅲ－２－（１） 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
Ⅲ－２－（１）－① 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	a	・年度末に実施する研修の資料はキリスト教保育、年主題、当該年度の全体計画、保育年間計画などが細かく記載され1日かけ全体研修を行ない来年度へ向けて丁寧に共有している
Ⅲ－２－（１）－② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	・マニュアルは職員の意見をもとに園長が7月末に見直しを行っている
Ⅲ－２－（２） 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
Ⅲ－２－（２）－① アセスメントにもとづく個別的な福祉サービス実施計画（個別支援計画）を適切に策定している。	a	・アセスメントは子どもの日々の様子や発達の状況をクラスで把握し計画を策定している
Ⅲ－２－（２）－② 定期的に福祉サービス実施計画（個別支援計画）の評価・見直しを行っている。	a	・日々の振り返り、クラス会議などで状況を確認し評価、見直しを行っている
Ⅲ－２－（３） 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
Ⅲ－２－（３）－① 利用者に関する福祉サービス実施状況（個別支援計画）の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	・各記録はICTに記録している ・毎日クラス内で共有し、さらに週1回の職員会議では他クラスの職員にも共有している
Ⅲ－２－（３）－② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a	・園は個人情報記載された書類の取り扱いルールを定め、職員は厳守している ・重要書類は鍵付きの書庫に入れることを徹底している

A 個別評価基準

A－１保育内容

	第三者評価結果	コメント
A－１－（１） 全体的な計画の作成		
A－１－（１）－① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	a	・園長が理念・方針に基づき職員会議、各計画の評価、自己評価結果、保護者会、懇談会、保護者アンケートなどを踏まえ作成している
A－１－（２） 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
A－１－（２）－① 生活にふさわしい場として、子どもが心地良く過ごすことのできる環境を整備している。	a	・保育室、ランチルーム、階段、ホールなど、どの場所も窓が多く明るい室内となっている ・広い園庭があり、子どもが思い切り走り回れるスペースを確保している ・子どもの在園時間や生活リズム、身体の要求に合わせて休息を取り入れている ・職員は手作りの蛇腹式パーテーションを作り子どもの個性に合わせて保育が出来る場所を提供している

A-1-(2)-② 一人一人の子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a	・自由と個性を大切にした保育が行われている ・その日の活動は子どもの状態によって柔軟に計画を変更している ・職員は子どもの発達やその時の感情、気持ちを受け止め安心して過ごせるよう保育に努めている ・子どもの言葉、表情、視線、行動を待ち求められた時には一緒に遊び、子どもが自分で考えられるよう声掛けを行っている
A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身に付けることができる環境の整備、援助を行っている。	a	・職員は家庭と協力しながら、子どもの「やってみたい」「挑戦しようとしている」「関心を示している」といった小さなサインを丁寧に受け止め発達の段階に合わせて自分でできた喜びを感じられるよう支援している
A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	・職員は子どもの言葉や友だち同士の会話を丁寧に把握し、遊びが広がるよう支援している ・遊びの場面ではこどもが必要なグッズをアイディアとして出し合い話し合えるようにし、安全に練習できるスペースを確保するなど遊びが発展するよう努めている。年下のクラスの子のお手本になっている
A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	・一人ひとりの発達に合わせ、1対1のかかわりを大切にしたい保育が行われている ・経験豊富な職員は子どもの状況を細やかに見守り、目線を合わせ、声に応じながら丁寧に関わり愛着関係を築いている ・0・1歳児の保育室がつながっていることを活かし発達の早い子は1歳児の活動に参加できるようにしている
A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	・発達の差が大きいいため決して無理強いすることなくやろうとする気持ちを芽生えるまで根気強く見守っている ・酷暑で水遊びができない中、職員は少しでも夏を感じられるよう氷あそびを行っていた ・椅子は子どもの体格に合わせて用意し自然に正しい姿勢で座れるようにしている ・2歳児クラスでは進級後に集中して話が聞けるよう座ってられる練習をしている
A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	・園庭が使えない酷暑の中では保育室をつなげサーキット遊びなどダイナミックな遊びができるよう工夫している ・子どもが遊びを考えたり計画を立てている時は職員はあえて口を出さずに見守っている ・子どもが活発に意見を出しあい実現するようサポートしている ・子どもが集中して遊びこめるように職員がパーテーションを自作している ・個性と自由を大切にしたい園では子ども同士の助け合いがあらこちらに見られた
A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	・クラス会議で個別支援計画を作成している ・養育機関と連携を図り支援にあたっている ・園全体で職員が協力し合いながら支援を行っている
A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	・長時間保育の子どもは夕方から本やDVDを活用し静かな環境で落ち着いて過ごせるようにしている ・迎えまで園庭で遊んだり、保育室コーナー遊びをしたり、子どもたちがあきないように工夫して保育を行っている

A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a	・近隣小学校の教頭や1年担任から現状や入学までに求められる力を確認し、その内容を踏まえて小学校接続プログラムを策定している ・年長児は4月から週1回「午睡なしの日」を設け、9月以降は徐々になしの日を増やしていつている ・3月に小学校の授業見学を実施し具体的な小学生像を掴むきっかけとしている ・保護者へは面談を実施し就学に関する不安や相談に応じながら家庭との連携を図っている
A-1-(3) 健康管理		
A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a	・毎日の視診や検温、食事や午睡の観察を行っている ・感染症マニュアルを整備、年間保健計画に基づいて職員の研修、保護者への啓蒙を行っている
A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	・年2回の健康診断や年1回の歯科健診を行い、結果は書面で保護者に報告している ・医師の助言をもと保健計画や保育に反映している
A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	・入園前面談で全ての保護者にアレルギー・未摂取食品について確認している ・アレルギー該当児は医師の診断書を元に除去食を提供している ・アレルギー食は専用のトレーに机上札で目立つようにし調理者と配膳者がチェックリストを用いて確認している。さらに各クラスで担任が受取時に確認し最初に配膳するなど誤食を絶対に出さないよう細心の注意を払っている
A-1-(4) 食事		
A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	・幼児は当日のメニューを見て、自分で食べられる量を決められるようにし、自主性や食への意欲を育てている ・ランチルームや園庭のデッキでの食事など環境を変化させることで特別感や開放感を持って食事を楽しめるようにしている ・リクエストメニューを卒園前に実施し思い出作りとともに食育につなげている ・今後は郷土料理も積極的に提供していきたい意向がある
A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a	・衛生管理チェック表を用いて衛生基準を遵守し安全な給食を提供している ・0・1・2歳児には調理職員が昼食時にクラスへ入り一人ひとりの喫食状況を把握して調理方法に反映している ・特に0歳児はおかず・主食の形態を細かく調整し安全に食べられるよう努めている ・調理担当者は配膳やおかわりの支援を行い毎週の給食会議、毎日1クラスから感想を聞き、職員は下膳時に子どもの声を伝えメニューの改善や工夫につなげている ・出汁は煮干しから取り、素材の味を大切にしている

A-2 子育て支援

	第三者評価結果	コメント
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	・ICT連絡帳や登降園時の会話を通じて日常的に情報交換を行い、子どもの様子を家庭と共有している ・保護者総会や役員会、面談、各種お便りなどを通じて保育の意図や内容を伝えるよう努めている ・年度末に職員や保護者からのメッセージを収めたアルバムを作成し、またICT連絡帳は複製できるサービスを用意し家庭でも子どもの成長を共に喜べるよう努めている

A-2-(2) 保護者等の支援		
A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	・重要事項説明書に「全職員が全園児とふれあい、関わる保育」「いつでも、どの職員にでもお声がけください」と明記し保護者が安心して声をかけられるよう伝えている ・年3回の子育て講座や給食試食の機会を設け親交を深め相談しやすくしている ・外国籍の保護者には個別対応を行うほか重要なお知らせは外国語版のおたよりを作成し情報が確実に伝わるよう配慮している
A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a	・マニュアルを策定し「対応手順」「通告・相談への対応」「情報提供に当たっての留意点」に分けて記載している ・対応手順は「〇〇の場合」と場面ごとに整理子どもと保護者それぞれへの対応を具体的に示し職員がそのまま対応できるようにしている

A-3 保育の質の向上

	第三者評価結果	コメント
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)		
A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a	・年3回の自己評価、日々の保育振り返りから評価を行っている ・また職員会議、クラス会議、乳児・幼児別会議、主任以上会議を実施し課題を共有し保育の質と専門性の向上に努めている